

風車のある風景

オグマナオト

福島県郡山市・風の高原

風車は幻想的だ。

地上から100メートルもの高さを誇るこの人工物は、風に活かされ、自然と共存することで、遥か昔からそこに存在していたかのような不思議な佇まいを醸し出す。流線型の3枚の羽が生み出す「ヴォーン、ヴォーン、ヴォーン」という鈍く風を切る音も、なぜか耳に心地よい。昨今、《環境に優しいクリーンエネルギー》といった唄い文句で世界的な風力発電ブームだが、エコだとか、クリーンエネルギーだとか、そんなこととは関係なく、大地にそびえ立つ巨木のような風車の佇まいが、私は大好きだ。特に、何十基と群れをなして佇む姿は、圧倒的に雄大で美しい。

風車が並ぶ風景、と言うと外国の物という印象もあるが、実は日本でもこの十年程で一気に増えて来ている。中でも私がオススメしたいのが、福島県郡山市にある『風の高原』の風車たちだ。福島県の中央・猪苗代湖の南に位置する標高約1,000メートルの布引高原。この高原に三年前、33基の風車が登場し、『風の高原』という名で呼ばれるようになった。地元民にもまだあまり知られていない隠れた観光スポットである。この場所の魅力は、風車と四季の自然との共演にある。春には緑眩しい水芭蕉が、夏には燃える様に咲き乱れる向日葵畑が、秋には優しいコスモスの花が風車群の足元で見事に咲き乱れる。冬は一面雪景色に覆われ、風車自身の白色と絶妙なグラデーションを描くのだ。

また、この土地は霧がよく発生する場所でもある。1メートル先が見えない濃い霧に覆われた時には、巨大な風車群が全く見えなくなり、風車の風切り音だけが不気味に存在する。映画のワンシーンのような、日本なのに日本じゃないような、幻想的な情景を作り出してくれるのもここの風車の大いなる魅力だ。季節ごとに違った表情を見せるこの風車群を是非とも一度堪能して頂きたい。

北海道稚内市・宗谷岬ウィンドウファーム

風車は孤独だ。

「風力発電」という社会的使命を負っているにも関わらず、その多くが社会から隔離されたような場所に設置され、メンテナンスでも無い限り電力会社の担当者も近寄ることはない。似たような存在として灯台があるが、「灯台守」というコトバはあっても、「風車守」なんてコトバは聞いたことがない。風車とともに生きる、なんてことはナウシカの世界だけのものだ。風車は一人？寂しく、ただ黙々と自らの仕事に没頭するだけだ。今回はそんな孤独な風車の中でも、最も厳しい環境に佇む風車をご紹介します。

日本の最北端の地として有名な宗谷岬から車で50分ほど。宗谷岬牧場に囲まれた道を進むと、白い風車群が姿を現す。オホーツク海から吹き付ける極寒の海風を受け止めるこの場所は「宗谷岬ウィンドウファーム」と呼ばれる国内最大級の風力発電基地である。全57基の風車が北海道の雄大な大地の上に立ち並ぶ姿は、少し離れた場所から見るとただただ壮観の一言だ。だが、富士山が遠くから見た方が美しいように、実際に風車に近づいてみると一基一基の間隔が数百メートルは離れていて、お互いを干渉し合わない現代人のようで物悲しさを覚える。仮に風車が、羽で生み出す風切り音で会話出来るとしても、その声は決して隣の風車には届かないだろう。

二年前のちょうど今頃、実際にこの地を訪ねてみたのだが、初冬の厳しい寒さのせいか観光客の姿も無く、周りにいたのは宗谷岬牧場の牛だけだった。こんな孤独な環境で、誰に見張られている訳でもないのに、休むこと無くただ黙々と羽を回し続ける風車を見ていると、自分が感じる孤独なんて如何にちっぽけなんだろうかと反省するばかりだった。

あなたが孤独な夜に襲われたとき、こんな厳しい環境で頑張っている風車がいるということを思い出してもらえれば、少しは慰みになるのではないだろうか。

都心の風車たち

風車は、意外と都会的だ。

山間部や海岸沿いに並んでいるイメージが強い風車だが、東京や横浜などの都心部でもその姿を見ることが出来るのをご存知だろうか。白い巨体とグルグル回る羽は、都会の殺風景な景観にちょっとしたアクセントを生み出してくれる。そんな、都心でも楽しむことが出来る風車をいくつか紹介したい。

1：東京都江東区『東京風ぐるま』

東京湾の埋立地に設置された2基の風車。羽田空港に近いことから、飛行機と風車の「白い巨体2ショット」という撮影スポットとしても密かな人気を集めている。夜にはライトアップされ、夜空と東京湾の中に怪しく浮かび上がる姿はまた別な印象を与える。

2：東京都江東区『若洲風力発電所』

環境問題対策として江東区が若洲公園内に設置。タワー部分に鉄腕アトムや火の鳥などのキャラクターが大きく描かれている。これは次世代の子供たちに風力発電を親しんでもらおうとの配慮からだそうだ。

3：神奈川県横浜市『ハマウイング』

みなとみらい21地区からも近く、横浜市の新たなランドマークとして認知が広がりつつある。毎日ライトアップをしているが、横浜ベイブリッジなどの横浜港内にある他のライトアップ施設と調和して色を変えるなど、光の競演を楽しむことが出来るのも魅力だ。

これら都心部の風車に共通するのは、市民に愛されるために様々な施策を行っていることだ。前出したライトアップやイラストでの演出もそのひとつだが、それ以外でも、定期的に見学会を実施したり、WEB上のライブカメラで「今の風車映像」を楽しむことが出来るようにしている。

クリーンエネルギーとして注目され、いいこと尽くめのような風車だが、最近では近隣住民との騒音問題が生じたり、無計画に建設してエネルギー効率が悪い風車など、問題点もちらほら起き始めている。自然との共生のためには、都市（市民）との共生を意識することが、今後増々求められるだろう。